

重点取組分野	元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①育成すべき資質・能力を明確にし、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から授業改善を図り、学力や学習意識の向上を目指す。 ②「学力向上アクションプラン」に基づいた取組を全学級で実践する。	①年9回の校内授業研究会と1回の公開授業研究会を通じ、数学的な見方・考え方を働かせた授業改善に取り組んだ。1時間単位だけでなく単元全体を見通した学びづくりに取り組んだ。 ②スキル・読書タイムの継続、内容を充実させ、基本的な学習事項の定着に努めた。	B
豊かな心	①自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深められるように、道徳授業の充実を図る。 ②「豊かな心の育成推進プラン」に基づき、自他やまちを大切にす心情や態度を育む。	①年1回以上、授業参観での道徳の授業公開を行うことにより、自己を見つめ直し、振り返る道徳の授業について深く考えた。②人権月間には各クラス「人権トーク」を行い、人との関わり方について児童が主体的に考えた。地域との関わりを通して、まちを大切にす意識を育んだ。	B
健やかな体	①「体育・健康プラン」に位置付けた一校一実践運動「体力づくりタイム」の活動を通して、体力づくりへの意識を高める。②学校保健委員会テーマに基づき、年間を通じ心身ともに健やかでたくましく生きる力を育む。	①体力づくりタイムの短縄や長縄では、記録を伸ばす児童が多く見られた。持久走では、昨年度までは歩いてしまう児童も見られたが、今年度は歩く児童は見られなくなった。 ②体力づくりタイムや各クラスの取り組みを通じて体づくりを行う機会を設け、積極的に取り組んだ。	B
特別支援教育	①岸谷スタディールーム【グループ学習(2年～)・算数習熟度別少人数学習(3年～)】を実施する。 ②特別な支援を必要とする子どもに対し、学習支援だけでなく生活支援や友達との関わり方の支援等ができるよう関係機関とも連携しながら、子どもの見取りとその対応を丁寧に行う。	①グループ学習・習熟度別少人数学習を実施し少人数で行うこと、複数の教師で指導することにより、より実態に合った指導を行うことができた。②東部地域療育センターのコンサルテーションや、県立鶴見養護学校のセンター機能を利用し、気になる児童に対する具体的な支援方法を学んだ。	B
学校運営協議会	①各委員による行事や授業の参観後、学校運営に反映させていくための協議を行っていく。②委員からだけでなく、授業参観や運動会・岸谷ふれあいコンサート等の学校行事等、年間を通して保護者から授業評価や学校評価のアンケートをとり、授業や行事、学校運営の改善に努める。	①協議会委員より、行事や授業参観後に給食ミーティングの場でご意見を伺い、学校運営に反映させることができた。②保護者のアンケートでは、マチコミを活用し意見を集め、行事への関心の深まりを感じ取ることができた。ご意見を受けより良い形態や運営に役立てたい。	B
いじめへの対応	①いじめの起きにくい学級風土づくりや子どもの健全な発達を促すために、「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を取り入れた実践を計画的に位置づけ、親和的な集団づくりを進める。②個性の尊重、相互理解や共感を大切に魅力ある授業を展開していくように努める。	いじめ防止委員会の定期開催、いじめ解決一斉キャンペーンの取組、YPアセスメントによる学級風土分析等を通じ、いじめの早期発見、早期解決の取組を組織的に進めた。道徳の授業、人権月間の取組を通じて、個性を認め合う、また、いじめを予防しようとする児童の意識の向上にも努めた。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①5年次以下の教員でステップUPチーム・キャリアUPチームを組織し、授業や研修を通じ学習指導・児童指導のスキルUPを図る。②キャリアUPチームによる不祥事防止研修を実施し、互いに相談できる職場環境づくりを進める。③年間を通して業務の改善・効率化の視点をもち働き方改革を進める。	①ステップアップチームでは、月1回クラス運営や学習指導について情報交換を行った。また、研究授業や夏のミニ研修会を行い、様々な教科・領域について学ぶ機会を設けた。②月1回、不祥事防止研修を行い、意識の向上に努めた。③業務改善シートを活用し、全体で共有・改善を行った。	B
ブロック内評価後の気付き	9月の小中一貫教育推進ブロック授業研(道徳)では、「命の大切さ」をテーマに設定し、ブロックで育成を目指す子ども像「学習や生活の良い習慣を身に付け、自分の力を伸ばそうと努力する子ども」について、活発な意見交換をすることができた。 2月ブロック内地域協働で行った大合奏では、小中一貫教育推進会議で確認された、将来自立していくために小学校・中学校を通して身につけたい基礎力を意識した活動が行われ、9年間を通して育成を目指す資質・能力の明確化に向けた取り組みの充実が図られた。		
学校関係者評価	言語活動の充実や、国語の基礎学力を向上させるためにも、読書は大切と考える。読書活動の時間を確保してほしい。保護者アンケートを行事や学校運営に役立てるために積極的に進めていくことはよい。今年度からはマチコミのネットからのコメント入力になったので、感情的にコメントしてしまう保護者もいると考えられる。無記名で少人数の意見に流されることなく、学校としてしっかり対応してほしい。いじめ対応について学校側は研修や話し合いを重ねているが、実際いじめている意識がなかったり、当事者もいじめられている意識がなかったりするので、お互いの立場について伝えていきたい。		
中期取組目標振り返り	「生きてはたらく知」では、スキル読書タイムのスキルタイムの内容を充実させるよう努めてきたが、今後は言語活動の充実のために、読書活動にも力を入れていきたい。「特別支援教育」ではグループ学習・習熟度別少人数学習を実施し少人数で指導することにより、より実態に合った指導を行うことができた。今後グループ分けについてはより良い形を検討していきたい。「学校運営協議会」では、保護者アンケートをしっかりと分析していくが、少人数派の意見に流されることなく、学校運営に役立てていきたい。		

重点取組分野	2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①育成すべき資質・能力を明確にし、カリキュラム・マネジメントの視点から授業改善を図り、組織的に学力や学習意識の向上を目指す。②「学力向上アクションプラン」に基づいた取組を全学級で実践する。	「自ら追究する力」を育成するために、他教科と算数を関連させた授業を実践した。問題を見いだし、算数を活用して解決しようとする姿が多く見られるようになってきた。育成を目指す資質・能力を明確にし、意識調査、学力調査などの分析に基づいた取組とする必要がある。	B
豊かな心	①互いに関わり合い、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深められるように、「考え議論する」道徳授業の充実を図る。②「豊かな心の育成推進プラン」に基づき、自他やまちを大切にす心情や態度を育む。	道徳の授業では、全学年共通で自分づくりに関する重点項目を設定し、授業を行った。人権トークや学年での様々な取組について道徳との関連を図り、他者との関わりを通して自己を見つめ、他者を思いやる気持ちを育めた。	B
健やかな体	①前年度体力・運動能力調査結果を基に「体育・健康プラン」に位置付けた一校一実践運動「体力づくりタイム」を見直し、体力向上を目指す。②学校保健委員会テーマについて体力・運動能力調査結果生活意識調査結果から見直し、年間を通じ心身ともに健やかでたくましく生きる力を育む。	体力づくりタイムを継続的に進め、短縄で長く跳べる児童やいろいろな跳び方ができる児童が増えた。学校保健委員会年間テーマについて話し合い、感染症対策を意識して換気や手洗いなど進んで取り組む姿が見られた。	B
特別支援教育	①特別な支援を必要とする子どもに対し、校内の特別支援教育委員会を中心に実態や支援の方向性等の情報共有し、関係機関と連携しながら、子どもの見取りや支援・指導を適切、組織的に行う。 ②個別の支援計画・指導計画を学年・ブロック見直し、個に応じた支援・指導の充実を図る。	特別支援教室を設置し、一人ひとりの基礎的・基本的な学習内容の定着を図った。3年生以上の算数において、少人数学習を設定し、個に応じた支援をした。また、学校カウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携しながら生活面・行動面の支援をした。	B
学校運営協議会	①各委員による学校参観後、中期学校経営方針や各種調査結果等による子どもの実態を共有し、学校運営に反映させていくための協議を行っていく。②年間を通して保護者から授業評価や学校評価のアンケートをとり、授業や行事、学校運営の改善を図る。	学校の取組の様子を紙面で情報共有し、改善点を出していただき、今年度の学校運営やコロナウイルス対策につなげた。また、保護者アンケートの結果を共有し、挙げられた課題の原因等を分析し、学校運営の改善策を検討した。	B
いじめへの対応	①毎月定期的に教職員全体で児童指導に関する情報共有を徹底して行い、いじめの未然防止、早期発見を図る。②いじめのおきにくい学級風土づくりや子どもの健全な発達を促すために、横浜プログラムの実践を計画的に位置づけ、親和的な集団づくりを進める。	校内で情報共有やいじめ認知を的確に行い、解消に向けて関係機関と連携して組織的に取り組んだ。いじめ防止研修、YPアセスメント、いじめアンケートの分析に基づく横浜プログラム等を実践し、よりよい学級風土づくりを進めた。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①年間を通してカリキュラム・マネジメントの視点から、業務の重点化、効率化を図る。②ステップUPチーム・キャリアUPチームを組織し、授業や研修を通じ学習指導・児童指導のスキルUPを図る。③学年のクラスの枠を超えた教科指導を実践し、互いに研鑽、相談し高め合う環境づくりを進める。	グループウェア導入など業務改善を進め、職員の在庁時間を減少させた。各種職員研修(ステップUPの研修、学習評価、危機管理研修等)を年間を通して継続的に進め、職員の資質・能力が向上した。学年の発達段階に応じて、教科を分担するなどして指導にあたり、効果的な教科指導を進めた。	B
ブロック内評価後の気付き	小中一貫教育推進会議では、まちな人と関わり合いながら育成する子ども像に基づき、ブロック事業について検討した。部活動体験や授業参観、職場体験等の取組は実践できなかったが、各校の状況について情報交換の中で、コロナ禍での制限を踏まえつつブロックで大切にしたい視点について確認できた。ブロック合同の人権研修では、経済局中央卸売市場食肉市場長を講師に招き、雇相差別について講演をしていただいた。各校の教職員の人権尊重の意識を高め、人権教育の推進に努めた。		
学校関係者評価	コロナウイルス感染症拡大に伴い、学校の教育活動に様々な制限がある中、感染症対策を適切に講じながら、運動会や修学旅行など、できる範囲で実施していくことで子供の豊かな学校生活の実現を目指したことは大変意義があった。ICT活用の充実というプラスの側面もあった。いじめへの対応については、発生した事案に対して、子どもや保護者に寄り添い、組織的に対応することができている。保護者の声は真摯に受け止めるが、学校の経営方針を丁寧に伝え、理解、協力を得ていくことには変わりはない。今後も引き続き地域、保護者、教職員が一丸となって対応したい。		
中期取組目標振り返り	コロナウイルス感染症拡大に伴い、登校日数削減や教育活動の制限があったが、運動会や修学旅行など、できる範囲での教育活動の充実を目指すことができた。感染症対策を踏まえた上での教育活動の在り方について今後も検討したい。また、重点取組分野についてエビデンスに基づく成果と課題の検証の必要性が感じられた。評価方法を明確にし、評価を年間予定に位置づけたい。いじめへの対応等から、学校組織力は教職員個々の資質・能力の向上が基盤となること改めて認識された。カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ、教職員の研修の充実を図りたい。		

重点取組分野	3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①カリキュラム・マネジメントの視点から、組織的に育成すべき資質・能力とその評価を明確にし、学力や学習意識の向上を目指す。②「学力向上アクションプラン」に基づいた取組を全学級で実践する。	育成したい資質・能力を明確にし、教科横断的な学びを実践した。授業研究会の実践を通して、授業研の質的向上も図った。取出しや少人数の学習体制など学年の実態に合わせて実施した。週3日程度朝の時間に基礎学力の定着・習熟を図る学習を行った。	B
豊かな心	①自分づくりの視点から、互いに関わり合い、自己の生き方についての考えを深め、「考え議論する」道徳授業の充実を図る。②「豊かな心の育成推進プラン」に基づき、道徳授業の公開や学年人権トークを行い、児童、保護者の豊かな心の育成への意識を高める。	道徳では、他者との関わりを通して自己を見つめ、思いやる気持ちを育めるように、様々な取組の中で道徳との関連を図った。人権福祉委員会による挨拶運動や互いのよいところを見つめ合う取組を行い、人権感覚の基盤となる他者意識の大切さに気付いた。	B
健やかな体	①体力・運動能力調査結果を基に「体育・健康プラン」に位置付けた一校一実践運動「体力づくりタイム」を見直し、体力向上を目指す。②学校保健委員会テーマについて、生活意識調査結果及びコロナウイルス感染症対策の側面から見直し、全校での取組の充実を図る。	前期は短縄、後期は長縄を行った。休み時間にも積極的に練習する姿が見られた。「運動してコロナウイルス感染症に負けない丈夫な体をつくらう」をテーマに取り組んだ。また、マスクや手洗いの呼びかけを行い、感染症予防に努めた。	B
特別支援教育	①校内の特別支援教育委員会を中心に、関係機関や保護者、地域と連携しながら、実態や支援の方向性等の情報共有し、子どもの見取りや支援・指導を組織的に行う。②保護者への周知、理解、職員研修を進め、支援・指導の充実を図る。	個別の支援計画・指導計画を活用し、特別な支援を必要とする子どもの実態や目標について職員全体で共有した。その上で、個別支援学級や国際教室、岸谷SR(スタディールーム)など多様な学びの場でも一人ひとりに応じた支援の充実を図った。	B
学校運営協議会	①中期学校経営方針やいじめなどの諸問題、保護者の声等を共有し、学校運営の改善の協議を行う。また委員会への要望も積極的に進める。②保護者からのアンケート結果を踏まえた上で運営委員会が学校評価を適切に行い、学校運営の方針を検討、確認する。	第1回の学校運営協議会では、経営方針・評価計画・予算について承認していただき、保護者からの運動会・年度末アンケート結果を踏まえ、今年度の学校評価をしていただき、来年度につなげていく。	B
いじめへの対応	①適切な初期対応、組織的対応ができるよう、教職員全体での情報共有の徹底を図る。②いじめ防止の取組の充実を図る。いじめのおきにくい学級風土づくりや子どもの社会性の発達を促す横浜プログラムの実践を計画的に位置づけ、親和的な集団づくりを進める。	校内での情報共有やいじめ認知を早期にそして的確に行い、組織的に対応した。岸谷小いじめ防止基本方針を全教職員で読み合わせ、いじめ防止の理解を深めた。YPアセスメント、いじめアンケートを実施し、いじめが起きにくい学級風土づくりを進めた。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①カリキュラム・マネジメントの視点から、業務の重点化、効率化を図る。②人材育成指標に基づき各教職員の目標を明確にし、職員研修や授業研究会、ステップUP研修を年間計画に位置づけて資質・能力の向上を図る。③学年での教科分担指導を実践し、互いに研鑽、相談し高め合う環境づくりを進める。	グループウェアを活用して情報共有をより効率的・効果的に進め業務改善を進めた。各種職員研修(スキルアップ研修、学習評価研修、危機管理研修等)を年間を通して継続的に進め、職員の資質・能力が向上するよう努めた。教科を分担するなどして指導にあたり、効果的な教科指導を進めた。	B
ブロック内評価後の気付き	小中一貫推進会議では、教育課程全体で育成を目指す3つの資質・能力のうち、言語能力の向上に焦点化して授業研究を行った。コロナ禍においてブロックでの研究会・研修等は実践できなかったが、育成を目指す資質・能力を明確にして授業をデザインすることの大切さを再認識できた。本ブロックは、地域の特長として地域で子どもたちの成長を温かく見守る風土がある。その風土を生かし、地域の方との交流を通してブロック全体で子どもたちを温かい目で育てていくことを確認した。		
学校関係者評価	コロナウイルス感染症への対応も2年以上継続となった中で、緊急事態宣言やまん延防止重点措置等の期間が続く中、感染防止対策に尽力しながら運動会、修学旅行始め学校行事等もできる範囲で実施していた。地域との関係行事も全く行われなかったが、学援隊さんへの感謝の会を行い、感謝の気持ちを言葉や態度で表したり心の交流ができたことは意義深い。いじめ認知についても、前年度の経験、反省を生かして早期対応を行い積極的に認知をすることで、組織的に児童、保護者に対応した。		
中期取組目標振り返り	分散交互登校実施や活動内容に制限がある中、感染症が落ち着いた2か月ほどの中で、運動会や修学旅行、体験学習、遠足などを実施して、教育活動の充実を図った。第6波の子どもへの感染拡大は、感染力が非常に強いものでなかなか防ぎきれず、withコロナの学校生活を今後も考えていかなければならない。週1回の児童指導連絡会を設置し、情報共有・いじめ認知が的確に行われ、組織対応の充実が図られるようになった。特別支援教育も教職員の理解が進み、子供一人一人への対応が適切に行われるようになってきている。		